



朝の児童玄関、1列に並ぶ様子から…

副校長 細井 宏一

左の写真は児童玄関に設置したサーモグラフィカメラである。私は毎朝この横にいて、児童の検温をチェックしつつ、「おはようございます」と声をかけている。

このサーモグラフィカメラの前には、毎朝、右写真のように1列の行列ができる。8:00前後の時間帯が最もピークとなるが、児童玄関の構造上、中央にある柱（柱時計がある）の前で、柱の右側からくる児童と左側からくる児童とが1列になるために合流するようになる。この



時、子ども達がどのように1列になるのか見ていると、カメラ導入当初はスムーズに行かない様子が見られた。「我先に！」と、

自分の事だけ考えて強引に割り込むようにする児童がいると、少しもめ事になる。その子には「周りの人のことを考えなさい」と言いたくなる。逆に、反対側の並んだ列に対してなかなか入れないで止まってしまう児童もいる。この子には「自分が入りたいことを主張していいんだよ」と言いたくなる。「お先にどうぞ…」と譲ったのはよいのだが、譲り過ぎてしまい、自分の後ろに並んでいる人がすべて待ちぼうけになって渋滞するということがあった。上手に交互に入って、1列になれるとよいのである。自動車を運転する方ならおわかりかと思うが、例えれば丁度、道路で2車線が1車線になるときに、車が交互に入るような感じである。

そこで、「1列になるとき、目を合わせて、譲ったり、入りますと合図したりして、交互に入りましょう」と声をかけてみた。ところがこれも、すぐにはうまくいかなかった。どうやら、柱の向こう側の人は顔見知りでない人であることも多いので、知らない人とアイコンタクトで無言で意思疎通をすることは、小学生のコミュニケーション力では、少し難しいことなのかもしれない。当初、頻繁に「交互に入りましょう」と声をかけていた。



そんなある時、とてもよい児童の姿を目にして嬉しくなった。それが左の写真である。手を出して譲ることを伝えている。そして譲ってもらった児童が、手を小さく挙げてお礼の挨拶をしている様子である。譲ってもらったら会釈してお礼を伝える児童も多く見られるようになってきた。自然に、さりげなく、一人譲って、そして次は自分が入りますということをアピールできる児童の姿。何でもないような朝の一場面であるが、このようなコミュニケーションは、少し大げさかもしれないが、人の気持ちを考える心であり、上手な自己

主張であり、社会をいきるスキルとして大切なのではないかと感じている。自然にそういうことができる児童が増えてほしい。そして、子ども達には、自分も、そして周りも大切にできる人として育ててほしいと願う。